

有機栽培茶生産における害虫対策の実施による収量向上

対象者 甲賀市土山町 N氏

【普及活動のねらい】

土山町では、近年需要が高まっている有機栽培茶の生産者が増えており、その生産者と茶商業者からなるコンソーシアムにおいて輸出拡大や新たな販路拡大等に向けた取組を進めています。コンソーシアムの参画者の1人であるN氏は、約10aの茶の有機栽培に取り組んでいますが、有機栽培体系における防除経験がなく、十分な防除対策が実施できていませんでした。そのため、主要害虫（ハマキムシ類、カイガラムシ類、ダニ類、アザミウマ類）による被害が非常に多く、十分な収量が得られていないことが問題となっていました。

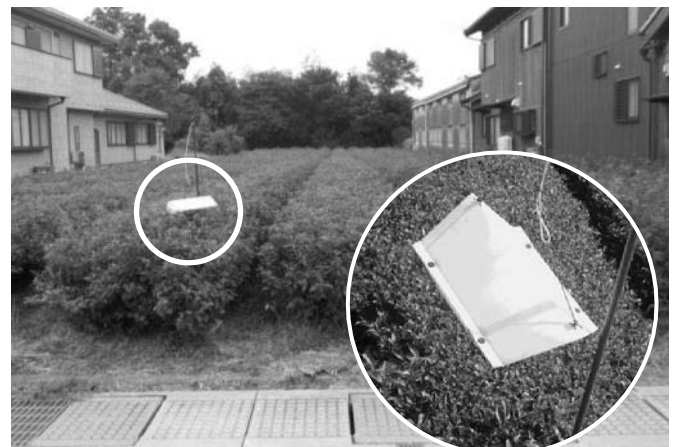


コンソーシアムにおいて有機栽培茶を評価

【普及活動の内容】

当初、有機JASの認証基準でも使用可能な資材を用いた防除体系を提案しました。しかし、害虫の発生は年次変動による影響が大きく、特に有機栽培体系では使用可能な資材が少ないため、被害を防ぎにくいのが現状でした。

そこで、年次変動にも対応した防除体系として、主要害虫の発生調査を核とした防除技術の習得を支援しました。発生予察情報に基づき適宜発生調査を行うとともに、フェロモントラップを用いた防除適期の把握方法や、適期防除を支援しました。



有機栽培茶園と
フェロモントラップの様子（右下）

【普及活動の成果】

平成30年度に問題となっていた害虫の被害は減少し、次年度の一番茶の基となる秋芽の生育が良好となり、令和元年度は96kgと慣行栽培（平均100kg/10a程度）に相当する収量が得られました。有機栽培で特に重要となる天敵相の発達を考慮し、発生調査を核とした最小限の農薬使用技術を実践することで、N氏は有機栽培体系における防除技術を習得されました。

当課は、今後も新たな取組となる有機栽培茶の生産に向けた技術習得を支援していきます。